

2025 年度(令和7年度)学校評価自己評価表

| | | |
|------------|-----------------|------------|
| 福山市立中央中学校区 | 校番53 | 福山市立西深津小学校 |
| 最終更新日 | 2025年(令和7年)4月4日 | |

I 福山市

| | |
|-------|---|
| ミッション | 福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 |
| ビジョン | 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。 |

II 中学校区

| | | | |
|---|---|------------------------|---|
| 前年度学校関係者評価の主な内容 | 児童生徒の現状 | 育成する 資質・能力 | スキル・・・ A【学びに向かう力】 B【課題発見・解決力】 倫理観・・・ C【自己肯定感】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の不登校生徒が増加している傾向にある。校区としての取組を進めてほしい。 ・小中学校の授業参観から子ども主体の学びを育む様子が感じられた。引き続き、子どもたちの主体性を育む取組を進めてほしい。 ・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できるという肯定的評価をいただいており、引き続き努力してほしい。 | <p>●各学校において、子どもの主体の学びづくりの中で主体性が育ちつつある。</p> <p>○小中で授業研究をすすめる、自分の考えをもち深め、対話する力を付けてきている。</p> <p>●全国学力調査の結果から特に中学校における数学、国語の力を伸ばす必要がある。</p> <p>●不登校傾向にある児童生徒数の出現率が中学校で高い。</p> | めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) | ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長する子 |
| | | 中学校区として統一した取組等 | 1 校区合同で実施する授業研究 2 中学校生徒会による「学校紹介」の実施 3 校区校長会、校区教頭会、校区各主任会等を通しての連携 |

III 自 校

| | | |
|--|---------------|---|
| ミッション | 育成する 資質・能力 | スキル・・・ A【学びに向かう力】 B【課題発見・解決力】 倫理観・・・ C【自己肯定感】 |
| 高い志を持ち、たくましく生きる子どもの育成 | めざす 子ども像 | A 「学ぶこと」のおもしろさを感じ、学んだことを身の回りの生活とつなげて考えたり、生活の中に取り入れたりしようすることができる。 B 身の回りの事象から興味・関心・疑問をもとに課題を見付け、学んだことや経験をもとに課題を解決しようすることができる。 C 身の回りの他者や環境との関わりの中で、自分の良さを見付けたり、自分は大切な存在であると感じたりすることができる。 |
| 学校教育目標 | | A 「学ぶこと」のおもしろさに気づき、学んだことや体験したことを生活に活かそうとすることができる。 B 自分なりの課題を設定し、見通しをもって方法を選択し、他者と考えを交流しながら、解決しようすることができる。 C 他者や周りの環境との関わりの中で、自分自身をみつめ、自分の良さや特徴を受け入れることができる。 |
| 「学ぶ楽しさ、生きる喜び」を持つ子どもの育成 | | A 「学ぶこと」のおもしろさを認識し、学んだことや考えたことを生活や学習に活用しようすることができる。 B 自ら課題を設定し、手段や情報を自分で選択し、多様な他者と協働的に活動しながら課題解決に向かい、新たな課題をみつけることができる。 C 自分自身を理解し、自分の目標や夢に向かって挑戦し、自尊感情を高めることができる。 |
| 現 状 | 研究 | テーマ 主体的・対話的で深い学びの創造 内容等 ○知識・技能を活用し、「なぜ？」と思考させる授業力を高める。 ○効果的な問い返しにより、使える知識・技能を習得させる授業力を高める。 |
| <p><児童生徒></p> <p>○児童が日常の生活の中で主体性を発揮し、自ら計画・実行しようとする気持ちが高まってきている。</p> <p>○地域を題材にした活動に積極的に取り組み、地域に愛着を感じている。</p> <p>●自分や周りの人の良さを認め合ってきているが、さらに自己肯定感を高める取組。</p> <p>●不登校気味な児童が多くなっていること。</p> <p><授業></p> <p>○学びに向かう意欲をもち、楽しみながら学習活動に取り組んでいる。</p> <p>○算数科や国語科で、基礎学力の向上が見られる。</p> <p>●自分の考えや思いを自分の言葉で表現し、対話により学習を深めること。</p> <p>●知識・技能を生きて働く知識・技能に高め、思考力・表現力・判断力の向上につなげていくこと。</p> | めざす授業の姿 | ○児童が「分かった」「できた」と語りたくなる知識・技能を身に付ける授業 ○児童が身に付けた知識・技能を「使いたい」と活用して思考・判断する授業 ○児童同士が学びや考えを互いにつなげ、学びを深める授業 |

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立西深津学校

| 年 目 | 中期経営目標 | 重 点 | 分 類 | 短期経営目標 | 目標達成に 向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | | 最終評価(2月末) | | | | |
|--------|---------------------------------------|--------|--------|---|--|--|--|------------|----------|--|--|------------|----------|----------|------|
| | | | | | | | □指標に係る 取組状況 | プロセス 評価 | 達成 評価 | 改善方策 | □指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況 | プロセス 評価 | 達成 評価 | 総合 評価 | 改善方策 |
| 8 | 児童の主体的・ 対話的で深い 学びを全教室 で展開 | ★ | 継続 | 生きて使える知識・ 技能の力の獲得を もとに、思考力・表 現力・判断力を高め る。 | ・児童の実態を把握 して単元・授業構 想を行う。 ・「なぜ？」を生む 導入の工夫を行 う。 | ・単元末テスト(算数科) 知識・技能B以上を 75%以上 思考・判断B以上を 65%以上 ・各学年、年1回以上単元 構想を行う。 | ・単元末テスト(算数科) 知識・技能 B 以上は 76%、思考・判断・表現 B 以上は 54 であった。 ・夏季研修で全学年児童 の実態を把握して、単元 構想を行い、導入や展開 の工夫を考えた。2学期 以降実施していく。 | 3 | 2 | ・チャレンジタイムで基 礎的・基本的な計算能 力、書く力、認知能力を 高める課題を曜日に応 じて設定し、取り組む。 ・教材研究タイムを週1 回設定し、教材研究及び 授業のフィードバック を行い、日々授業改善を 図っていく。 | | | | | |
| 5 | 安心して、自己 の可能性を発 揮できる環境 づくり | ★ | 継続 | 自己の可能性を発 揮することを通し て自己肯定感を高 め、不登校を減少さ せる。 | ・子どもが活躍できる場 づくりを行い、子ども 同士の認め合いや、教師 からの肯定的評価を積極 的に行う。 ・不登校傾向にある子ども が、その子に合った登校 の仕方で登校できるよう に、保護者とも連携を 図りながら取り組む。 | ・児童アンケート 「自分にはよいところ がある」肯定的評価を 75%以上 ・その子どもにおける欠 席日数を、昨年度より 減らす。 | ・「自分にはよいところ がある」の肯定的評価が70%で あった。全校的な場として、 縦割りの排除での頑張りを評 価し合うことができた。ま た、クラスにおいても、「今 日のキラリ」など、いいとこ りを見つけを習慣化している。 ・不登校傾向にある児童へ は、保護者と定期的に連携を 取って取り組んでいるが、昨 年度のこの時期と比較して、 欠席日数は減っている。 | 3 | 2 | ・「授業での小さな伸びをタ イムリーに評価する。」「友達 のいいところを見つけ、そ れをカードにして渡す。」「こ ども自身が意識していない よさを認識させる。」などの 取組を進めていく。 ・引き続き、その子に合った 登校の仕方を保護者と連携 しながら探っていく。 | | | | | |
| | | | | 地域の一員として 自覚をもち、地域に 対する愛着や感謝 の気持ちを高める。 | ・生活科、総合的な学習 の時間を中心とした 教科や行事の中で、 地域の人や物などの 資源を活用した活動 を行う。 | ・児童アンケート 「自分たちの住んでいる 西深津が好き」肯定的 評価を85%以上 | ・肯定的評価が85%であ った。年間の中で地域の人や物 などを活用した活動を計画 し、取組を進めてきた。昨年 度までの積み重ねもあり、肯 定的評価に表れていると考 える。 | 3 | 3 | ・後期以降も、計画さ れている活動を、子 どもたちに目的意識 や相手意識をもたせ ながら進めていく。 | | | | | |
| 3 | 教職員がやり がいを持ち、良 さを発揮でき る取組の推進 | | 継続 | 教職員が、個性を発 揮し、積極的に教育 活動に取り組み、や りがいを高める。 | ・情報共有の場とし ての職員室の場づく りを行う。 ・同学年だけではな く、しっかりと異学 年の教職員同士の対 話を行う。 | ・教職員アンケート 「日々の授業や子ども の姿について、立場や役 割を越えて対話してい る」90%以上 | ・教職員アンケート (1回目)において 86.7%であった。週 1回の教材研究の時 間を設けることで も、同学年・異学年間 での対話が広がって いる。 | 3 | 3 | ・引き続き、教材研 究の時間を定期的に 設け、日々の成果や 悩みをも情報共有で きる場としての職員 室の環境づくりを行 っていく。 | | | | | |

| [プロセス評価の評価基準] | | [達成評価の評価基準] | | [総合評価の評価基準] | | |
|---------------|--|-------------|------------------------|-------------|-----------------|-----------------|
| 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | |
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 | 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 | 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 | 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 | 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 | 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 | 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 | 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 | 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 | 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 | 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |